

# 2級管工事施工管理技術検定試験とは

2級管工事施工管理技術検定は、建設業法第27条に基づき、管工事に従事する施工管理技術者の向上、技術水準の確保を図ることを目的とした国家試験です。

この第1次検定に合格すれば必要な実務経験年数を経て第2次検定の受験資格が得られます。第1次検定合格者は所要の手続き後「2級管工事施工管理技士補」、第2次検定にも合格した者は所要の手続きを行うことによって、国土交通大臣から技術検定合格証明書が交付され、「2級管工事施工管理技士」と称することができます。なお、2級管工事施工管理技士は、建設業法に定められた一般建設業の許可要件である営業所における「専任技術者」及び工事現場における「主任技術者」となることが認められています。

## ○ 検定概要

### ○ 検定の種類

2級管工事施工管理技術検定は、令和3年度より「**第1次検定**」と「**第2次検定**」で構成されるようになります。第1次検定は1年に**2回（前期・後期）**、第2次検定は1年に**1回（後期）**行われます。「第1次検定のみ（前期/後期）」、「第2次検定のみ（後期）」のほか、同日に両方を受検する「第1次検定・第2次検定（後期）」の受検も可能です。

### ○ 検定の内容と出題範囲

検定区分	検定時間	解答形式	出題数・解答数
第1次検定	2時間10分	全問四肢択一	出題数：52問 うち40問を選択して解答
第2次検定	2時間	全問記述式（筆記試験）	出題数6問 うち4問を選択して解答

検定の内容は次のとおりです。

検定区分	検定科目	検定基準
第1次検定	機械工学等	1. 管工事の施工の管理を適確に行うために必要な機械工学、衛生工学、電気工学、電気通信工学及び建築学に関する概略の知識を有すること。 2. 管工事の施工の管理を適確に行うために必要な設備に関する概略の知識を有すること。 3. 管工事の施工の管理を適確に行うために必要な設計図書を正確に読みとるための知識を有すること。

次ページに続く

検定区分	検定科目	検定基準
第1次検定	施工管理法	1. 管工事の施工の管理を適確に行うために必要な施工計画の作成方法及び工程管理、品質管理、安全管理等工事の施工の管理方法に関する基礎的な知識を有すること。 2. 管工事の施工の管理を適確に行うために必要な基礎的な能力を有すること。
	法規	建設工事の施工の管理を適確に行うために必要な法令に関する概略の知識を有すること。
第2次検定	施工管理法	設計図書で要求される設備の性能を確保するために設計図書を正確に理解し、設備の施工図を適正に作成し、及び必要な機材の選定、配置等を適切に行うことができる一応の応用能力を有すること。

## ○検定スケジュール

第1次・第2次検定は次のような流れになっています。



## ○受検資格

### 第1次・第2次検定受検者

下記に該当するもの、もしくは職業能力開発促進法第44条による技能検定合格者

学歴	実務経験年数	
	指定学科卒業後	指定学科以外卒業後
大学 専門学校「高度専門士」	1年以上	1年6ヶ月以上
短期大学 高等専門学校 専門学校「専門士」	2年以上	3年以上

学歴	実務経験年数	
	指定学科卒業後	指定学科以外卒業後
高等学校 中等教育学校 専門学校（「高度専門士」「専門士」を除く）	3年以上	4年6ヶ月以上
その他	8年以上	

※詳細な条件については、試験センターの公式ホームページもしくは「受検の手引き」を参照のこと。

## 第1次検定のみの受検者

受検年度の年度中における年齢が17歳以上の者。

※平成28年度から2級技術検定の学科試験は、受検資格を満たせば実務経験の有無を問わず受験できることとなった（学科試験に合格し、所定の実務経験を積んだ後、実地試験を受検することができる）。

## 第2次検定のみの受検資格

- ・前年度2級管工事施工管理技術検定 第1次検定合格者
- ・平成28年度以降の第1次検定の合格者で、一定の受検資格を有する者

その他、各種受検資格がありますので、詳しくは公式サイトをご確認ください。

## ○受検地

- ・第1次検定（前期試験）  
札幌、仙台、東京、新潟、名古屋、大阪、広島、高松、福岡、那覇の10地区
- ・第1次・第2次検定、第1次検定（後期試験）  
札幌、青森、仙台、東京、新潟、金沢、名古屋、大阪、広島、高松、福岡、鹿児島、那覇の13地区

なお、2級第1次検定のみ試験地については、上記試験地に、宇都宮を追加する（試験地については近郊都市も含む）

## ○合格基準

下記が基準ですが、試験の実施状況等を踏まえ、変更がある場合もあります。

- ・第1次検定 得点が60%以上
- ・第2次検定 得点が60%以上

## ○申込方法

受検の申し込みは、簡易書留郵便による個人別申込に限ります。締切日の消印のあるものまで有効ですので、遅れないように提出しましょう。申込用紙は全国建設研修センターおよび全国の委託機関から購入し、必要書類と共に提出します。

申込用紙の購入先や必要書類等の詳細は、最新情報をWebサイトより確認してください。

## ○問い合わせ

上記の情報は、令和3年2月現在のもので、管工事施工管理技士試験を受検する際には、受検申込用紙に同封されている「受検の手引き」を参照するか、下記の試験実施団体に問い合わせてください。

### 管工事施工管理技術検定試験に関する申込書類提出先及び問い合わせ先

一般財団法人 全国建設研修センター 試験業務局管工事試験部管工事試験課

〒187-8540 東京都小平市喜平町2-1-2

TEL 042(300)6855(代)

Webサイト

<http://www.jctc.jp>

2級管工事施工管理技術検定について

<http://www.jctc.jp/exam/kankouji-2>

## 読者特典

以下のサイトから、第2次検定の「施工経験記述」(P.164)の練習用解答用紙がPDF形式でダウンロードできます。

<https://www.shoetisha.co.jp/book/present/9784798155678>

- ※本解答用紙は翔泳社が独自で作成したもので、実際の解答用紙とは異なる場合があります。
- ※コンテンツ配布は予告なく終了することがあります。あらかじめご了承ください。
- ※SHOEISHA ID (翔泳社が運営する無料の会員制度)のメンバーでない方は、ダウンロードの際、会員登録が必要です。

# 2級管工事施工管理技術検定試験の傾向と対策

## ○ 傾向

2級管工事施工管理技術検定試験は、例年、下記のような試験内容で実施されてきましたが、令和元年6月に建設業法が改正されたことに伴い、令和3年度からは大きく変わり、第1次検定と第2次検定により構成されることとなります。

**第1次検定となる旧学科試験**は、**4肢択一式**の問題が52問出題され、うち40問を解答する方法で、例年、実施されています。

**第2次検定となる旧実地試験**は、**記述式**の問題が6問出題され、うち4問を解答する方法で、例年、実施されています。

2級管工事施工管理技術検定試験の内容					
試験	分類	出題数	解答数	必須問題／選択問題	出題形式
旧学科試験	一般基礎	4	4	必須問題	4肢択一式
	電気	1	1	必須問題	
	建築	1	1	必須問題	
	空調設備	8	9	選択問題（17問中9問）	
	衛生設備	9			
	機器材料	4	4	必須問題	
	設計図書	1	1	必須問題	
	施工管理法	14	12	選択問題（14問中12問）	
	法規	10	8	選択問題（10問中8問）	
	合計	52	40		
旧実地試験	施工図	1	1	必須問題	記述式
	工事施工（空調）	1	1	選択問題（2問中1問）	
	工事施工（衛生）	1			
	工程管理	1	1	選択問題（2問中1問）	
	法規	1			
	施工経験記述	1	1	必須問題	
	合計	6	4		

※平成29年度現在の内容です。内容が変更される可能性があります。

# 対策

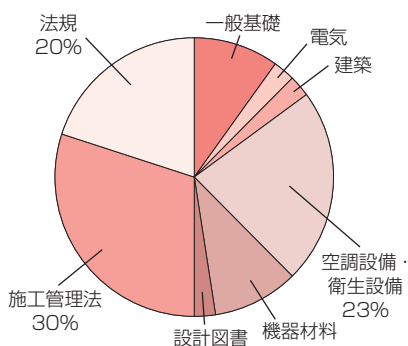
## ○第1次検定対策

第1次検定の合格基準は、正解率60%と公表されています。したがって、解答数40問のうち24問以上の正解が合格基準となります。

第1次検定となる旧学科試験の解答数に対する各分野の示す割合は、次のグラフのとおり、施工管理法の分野が40問中12問の30%と最も高いです。また、法規の分野は8問で20%を占め、**施工管理法と法規の分野で解答数全体の50%**を占めています。したがって、第1次検定での解答数が多い**施工管理法と法規の分野を重点的に勉強することが得策**です。

施工管理法の次に解答数に占める割合の多い**空調・衛生**の分野は、17問中9問選択の選択問題となっており、難しい問題は解答する必要はないので、**基本的な問題を確実に解ける**ようにしておくことが得策です。

旧学科試験：解答数に占める割合



## ○第2次検定対策

第2次検定の問題は、施工図、工事施工（空調・衛生）、工程管理、法規、施工経験記述に分類され、対策として考えられることは、それぞれの次のとおりです。

分類	対策
施工図	予備知識なしで正解することは難しい。過去に出題された図が繰り返し出題されるので、 <b>既出図面</b> をよく理解しておく。
工事施工	<b>第1次検定</b> で学習する <b>施工管理法の工事施工</b> に関する知識を応用して記述できるようにしておく。
工程管理	予備知識なしで正解することは難しい。過去に出題された問題の類似問題が繰り返し出題されるので、 <b>既出問題</b> をよく理解しておく。
法規	<b>第1次検定</b> で学習する <b>法規</b> に関する知識を応用して記述できるようにしておく。
施工経験記述	例年、出題されるパターンがほぼ定まっているので、 <b>予め、記述する内容を準備</b> しておく。